

重要文化財 臨春閣

保存修理事業

臨春閣では現在、保存修理のための工事が行われています。最大の事業は屋根葺き替え工事、^{ひわだ ぶ} 桧皮葺きと^{こけら ぶ} 柿葺きの屋根を葺き替える作業です。

文化財建物の維持管理は、日本古来の伝統技術を用いて行われます。特に^{ひわだ ぶ} 桧皮葺き・^{こけら ぶ} 柿葺き屋根の葺き替えは、関東圏ではめったに見ることのできない大変貴重な工事です。

We are working on the construction of Rinshunkaku now. It is a re-roofing construction and there are two types of roofing in this villa. The upper is Hiwada-buki, it is made of Hiwada(=Japanese cypress bark). And the lower is Kokera-buki, is is made of Kokera(=thin board). (" buki" means making a roof). To make these properly, we have men which have Japanese traditional techniques



^{ひのき} 桧の樹皮は、^{たちき} 立木のまま剥ぎ取られ採集されます。樹皮は木を傷めず^{いた}に剥ぎ取られるのでやがて再生し、そして数十年後、同じ木から新しい材料を採集することができるのです。

採集された^{ひわだ} 桧皮は、屋根を葺く^ふのに適当な形に整えられます。



^{ひわだ ぶ} 桧皮は葺く前に水に浸し柔らかい^{ひた}状態にし、丁寧に並べ屋根の形を作り上げます。



並べた^{ひわだ} 桧皮を竹製の釘で打ち付けます。竹釘も湿らせるため、屋根葺きの職人は竹釘を口の中に含み、向きを整え口から吐き出してリズムカルに打ち付けていきます。



^{ひわだ ぶ} 桧皮葺き とは？

日本では古来、植物を材料として屋根を葺く(=屋根を作る)ことが行われてきました。中でも^{ひわだ ひのき} 桧皮=桧の樹皮は防水性に優れ、また薄く柔らかい素材であることから優美な曲線を持つ屋根を葺くことができ、屋根の中でも最も格式の高いものとして社寺や宮殿建築などで多く用いられてきました。

しかし屋根は常に風雨や強い日差しに晒される箇所であり、徐々に劣化し時に雨漏りなどの大きな被害をもたらすこともあります。そのため定期的な作り替え=葺き替え作業は^{ひわだ ぶ} 欠かせず、桧皮葺き屋根の場合およそ20年ごとに^ふ 葺き替えが行われます。

臨春閣の屋根は、昭和62年(1987)以来大規模な^ふ 葺き替えは行われておらず、劣化は深刻な状態でした。

